

特典PDF Vol.3 | 研究者向け

# 審査員に伝える 科研費申請書 設計ガイド

採択を分けるのは、研究の質だけではありません。

「審査員の頭の中」から逆算する設計術を、  
認知科学の根拠とともに1冊にまとめました。

## はじめに——申請書は「論文」ではなく「プレゼン」です

科研費の審査員は、あなたの分野の専門家とは限りません。しかも1人が数十件の調書を、限られた時間で読みます。この条件下では、研究の質と同じくらい「一読で伝わる設計」が採否を左右します。

### 審査員の読書環境（ここから逆算する）

- 1件あたりに使える時間はわずか。精読ではなく「速読→気になったら戻る」
- 専門外の審査員も評価に加わる。専門用語の壁は想像以上に高い
- 疲労した状態で読む。認知負荷の高い調書は、内容以前に印象が下がる

### 本書の結論を先に

①冒頭1段落で「問い・方法・意義」を言い切る ②概念図は3秒で構造が伝わる形に ③段落の頭だけ拾い読みしても論旨がつながる構成に。この3つを整えるだけで、調書の「読まれ方」は大きく変わります。

※本書は書き方の「設計」に絞ったガイドです。公募要領・様式の最新情報は必ず原本をご確認ください。

## 第1章 冒頭1段落がすべてを決める

審査員が最初に読むのは「研究目的」の冒頭です。ここで研究の全体像が掴めないと、以降は「分かりにくい調書」というラベルの上で読まれ続けます。心理学ではこれを初頭効果と呼びます——最初の印象が、後続の情報の解釈を方向づけるのです。

### 冒頭1段落に入れる3要素

| 要素 | 書くこと       | 一文の型                  |
|----|------------|-----------------------|
| 問い | 何が未解決か     | 「～は、いまだ明らかになっていない」    |
| 方法 | どう解くか（独自性） | 「本研究は～という独自のアプローチで挑む」 |
| 意義 | 解けたら何が変わるか | 「これにより～が可能になる」        |

#### Before（ありがちな書き出し）

「近年、～分野では…が注目されている。…（背景説明が10行続き、目的は段落の最後）」

#### After（審査員ファースト）

「本研究の目的は、～という未解決の問いを、～という独自の手法で解明することである。これが実現すれば～が可能になる。（この後に背景を展開）」

#### なぜ効くのか

人の脳は「次に何が来るか」を予測しながら読みます。結論を先に渡すと以降の文が「答え合わせ」になり、認知負荷が下がります。逆に背景から入ると、審査員は「で、何がしたいの？」という宙づり状態で読み続けることになります。

## 第2章 概念図（ポンチ絵）は「3秒」で設計する

概念図は調書の中で最初に目に入る「顔」です。審査員が図を見て3秒で構造を掴めるか——ここで調書全体の印象が決まります。

### 3層構造で描く

上段＝問い（Why）：この研究が解く未解決の問いを一文で

中段＝方法（How）：問いを解く独自のアプローチ。図の主役はここ

下段＝意義（So What）：学術的・社会的に何が変わるか

視線が「上から下へ一直線」に流れる配置にする。矢印が交差した瞬間、図は「難しそう」に変わります。

### やりがちなNG

#### NG 1：要素を全部入れる

要素が20個ある図は、読み手のワーキングメモリ（一度に保持できる情報の器）をあふれさせます。1つの図に入れる要素は**3～5ブロック**まで。

#### NG 2：本文の説明なしに略語・記号を使う

図の中の略語は、専門外の審査員には暗号です。図内で初出の語には短い日本語ラベルを添えます。

#### NG 3：装飾で盛る

立体・影・グラデーション・多色は情報ではなくノイズです。色は2～3色に絞り、最重要ブロックだけに濃い色を使います。

#### 仕上げの確認法

図を初見の人（できれば分野外）に3秒だけ見せて隠し、「何をする研究に見えた？」と聞く。答えがあなたの意図とずれていたら、図ではなく設計を直します。

## 第3章 「拾い読み」に耐える本文構成

審査員は全文を精読しません。段落の頭だけを拾い読みし、気になった箇所だけ戻って読みます。この読み方に耐える構成のルールは3つです。

### ルール1：パラグラフ・ライティング

各段落の1文目に、その段落の結論を書く。**1文目だけを縦につないで読んでも論旨が通る状態が理想**です。書き終えたら、各段落の1文目だけを抜き出して並べ、話がつながるか確認してください。

### ルール2：見出しと太字で「地図」を作る

審査員が迷子にならないよう、様式の許す範囲で小見出しを立て、キーメッセージは太字にします。ただし太字は1ページに3〜5箇所まで。増やすほど1箇所あたりの効果は薄れます。

### ルール3：業績が少ないときは「計画の解像度」で信頼を作る

特に若手研究では、業績欄の厚さではなく「**問いの新規性**」「**実行可能性（予備データ・環境）**」「**将来性**」の3点で評価されます。実験計画の解像度（いつ・何を・どう検証し、うまくいかない場合の代替案は何か）を具体的に書くことが、業績の少なさを補う最大の武器です。

#### 不確実性は隠さず設計する

「リスクと対応策」を自分から開示した調書は、実行可能性の評価がむしろ上がります。不確実な点の正直な開示は、信頼を損なわないことが研究でも示されています（van der Bles et al., 2020, PNAS）。

## 第4章 提出前チェックリスト15

### 冒頭・全体設計

- ☐ 冒頭1段落に「問い・方法・意義」の3要素が入っている
- ☐ 研究目的を、専門外の人に口頭で1分で説明できる
- ☐ 各段落の1文目だけを読んで論旨がつながる
- ☐ 小見出しだけで調書の全体像が掴める

### 概念図

- ☐ 図が「問い→方法→意義」の3層になっている
- ☐ ブロック数は5個以内、矢印は交差していない
- ☐ 色は3色以内。最重要ブロックが最も濃い
- ☐ 分野外の人が3秒見て研究の方向を言い当てられる

### 文章・表現

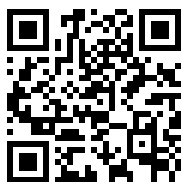
- ☐ 専門用語・略語は初出で定義している
- ☐ 1文は80字以内を目安に切っている
- ☐ 太字は1ページ3～5箇所にとどめている
- ☐ 「～と考えられる」の連発を避け、根拠と主張を分けて書いている

### 計画・信頼性

- ☐ 年次計画に「検証方法」と「判断基準」がある
- ☐ リスクと代替案（Plan B）を明示している
- ☐ 予備データ・研究環境で「実行できる根拠」を示している

## おわりに——「読まれ方」から逆算した人が採られる

科研費は、研究の優劣だけを競う場ではなく「限られた時間で審査員に価値が伝わるか」を競う場でもあります。本書の設計術はすべて、審査員の認知——予測する脳、狭いワーキングメモリ、疲労した読書環境——から逆算したものです。あなたの研究の価値が、正当に評価される形になりますように。



### 研究者向けサービス

申請書添削・概念図デザイン  
のメニューと料金  
[shinji.design/academic](https://shinji.design/academic)



### LINEで添削を受ける

「添削」と送ると、伝えたい  
一文を無料添削  
[lin.ee/qt5NRcO](https://lin.ee/qt5NRcO)



### 個別相談

締切前の短期支援もご相談く  
ださい  
[shinji.design/contact](https://shinji.design/contact)

**執筆者について：**村中伸滋（伸滋Design代表）。東京大学大学院で博士号（理学）を取得後、産学連携コーディネーターとして500件以上のプロジェクト創出に携わる。申請書を「書く側・審査する側・つなぐ側」の3つの立場から見てきた経験と認知科学の知見をもとに、研究者の「伝わる」を設計しています。国際学術誌 ChemPhotoChem 表紙アート採用。

© 2026 伸滋Design | 本PDFの無断転載・再配布はご遠慮ください。引用の際は出典（shinji.design）を明記してください。